

[芸術学科]

- ア 芸術や歴史文化の持つ普遍性や独自性について理解し、その現在的な意義について考える深い知識と感性を持つ人材を養成する。
- イ 芸術論や美術史、歴史や文化財、伝統文化など専門的な知識により、人類が育んできた芸術や歴史文化を知るための基礎となる理論や研究方法を習得させることを目的とする。
- ウ 卒業後の進路として学芸員や研究者など芸術や歴史理解に貢献する専門性の高い職業人を養成するだけでなく、生涯学習として、多様な地域、世代に生きる立場から自己の再発見や地域文化の新たな価値を見出し、芸術と社会をつなぐ力を活かすことのできる進路。大学院進学。

[美術科]

- ア 創発的な制作姿勢を身に付け、社会に向けて、各人の持つ制作技術を芸術作品に昇華できる人材を養成する。
- イ 美術や工芸の理論と歴史についての理解を踏まえた制作姿勢を学び、制作工程の目標や方法の設定など、プロジェクトの進行管理や作品の展示発表に向けた社会的コミュニケーションについての基礎的な手法を習得させることを目的とする。
- ウ 卒業後の進路として作家やデザイナー、美術教育者、美術館スタッフなどさまざまな専門的職業に携わるだけでなく、生涯学習として、修得したそれぞれの芸術的才能を活かした、地域や企業への進路。大学院進学。

[デザイン科]

- ア 生活の諸場面を豊かにするデザインについて、幅広く構想力を養うとともに基礎的技法を習得し、その上での専門的知識の獲得により、各表現手段固有の力を十全に発揮できる実践の手法を習得する。
- イ 実効性のある具体的で実務的な技法を身につけ、日常生活や社会生活において美しいものごとを創造できる、美的倫理(エステティック・エシク〈Aesthetic Ethic〉)を持った人材を育成することを目的とする。
- ウ デザイン分野で活躍できるデザイナーや、生涯学習として身に付けたその技術を社会に活かすことのできる進路。大学院進学。

[芸術教養学科]

- ア 芸術という語が最近ではほぼ「美術」fine arts という意味に特化し、特殊技能として受け取られる傾向があるが、本来芸術とは「六芸」や「リベラルアーツ」という古い語に残っているとおり、教養ある人間を形成するための学びであった。芸術教養学科では、伝統的な文化芸術を学びつつ、それを今日的なデザイン思考に活かすというカリキュラムのもとで、市民生活上での創意や批評力といった実残的な感性能力をもとに職場や家庭の環境を改善する人材や、地域文化の保護や育成に携わる人材を養成する。
- イ 人間生活の質の向上に資する芸術の意義に着目し、社会人の美的な能力の向上、またそれによる自己と社会への洞察力や豊かな生活環境を構想する力を習得させることを目的とする。
- ウ 卒業後の進路として生涯学習として身に付けた、デザイン思考の技術を地域や企業等、社会に活かすことのできる進路。大学院進学。